

# 高度医療で地域を支える

消化器内科で取り扱う臓器は消化管(食道・胃・十二指腸・大腸)、胆臓(胆道・膵臓)、肝臓に分けられます。当院ではそれぞれの領域を専門とする医師により、個々の患者さんに合った最適な治療を提供しております。胆臓領域においては、胆石症(胆管炎・胆嚢炎)、胆・膵がん、炎症性疾患などに対して主に内視鏡検査・治療、化学療法を行っております。

胆臓内視鏡診療においては従来からの内視鏡に加え、超音波内視鏡を用いております。図1。超音波内視鏡は2000年代から飛躍的に発展し、消化管外病変の観察や針生検にとどまらず、膵臓癌・胆嚢・胆管に対する経消



もりもと・みつとむ 金光学園高、岡山大学医学部卒。岡山大大学院博士課程修了。岡山市立市民病院 倉敷中央病院、岡山大学病院を経て2024年から津山中央病院勤務。日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、指導医、日本肝臓学会専門医。

## ⑦ 胆膵領域の内科診療について

津山中央病院内科医長 森本 光作



図1

化管的ドレナージが普及しつつあります。代表的例では、外科手術が第一選択

である急性胆嚢炎において、手術に耐えられないことが予想される状態の患者さんに対し、代替治療として経皮経

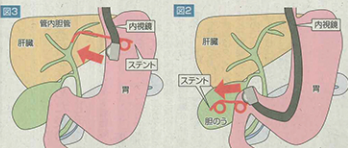


図3

## 図4 がんゲノム医療外来受診の流れ



肝ドレナージよりも超音波内視鏡下ドレナージがよい選択と考える積極的に行っております。外傷(皮膚からチューブが出た状態)にならず患者さんへの不快感が少なく、同程度の治療効果が得られるためです。図2。また、閉塞性黄疸に対する胆道ドレナージでは、全ての患者さんに標準的

な経乳頭的ドレナージを行うことは解剖学的に不可能であるため、一部の患者さんには経消化管的ドレナージによりほぼ全例で胆道ドレナージすることが可能となっております。図3。また、十二指腸乳頭部を介さないため、急性膵炎のリスクを低減できることも利点の一つと考えております。

化学療法については、ガイドラインに基づいた最新の治療を行っております。胃がん、大腸がんなど比較しただまだ治療薬が少ない領域ではあるものの、なるべく全ての薬剤を使用することにより良い予後が得られるよう工夫しております。

また、当院はがんゲノム医療連携病院であるため、がんゲノム医療中核拠点病院である岡山大学病院と連携することで、近年保険適応されたがんパネル検査を行うことが可能となっております。図4。標準治療で病勢制御できなくなってきた胆がん患者さんに切り札として提案させていただいております。

しかしながら、当然、胆膵領域の疾患は内科だけで解決できることは決して多くありません。岡山県北の最後のとりでとして、日々外科や放射線科と協力し、いろんな治療選択肢の中から患者さんへ最善の治療を提供できるように引き続き努力したいと考えております。